

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「笑顔と学びあい」
 ○経験を活かし、自主的実践的に問題を解決していく力を育てます。(知)
 ○互いのよさを認め合い、人を思いやる態度を育てます。(徳)
 ○自他の生命を大切にす心や健やかな体を育てます。(体)
 ○よりよい社会を創造しようとする態度を育てます。(公)
 ○持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする態度を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉
 【自己肯定感】
 【コミュニケーション】
 【まちを愛する態度・社会参画】

具体化した資質・能力

- ① 互いの特性を認め尊重する力
- ② 自ら課題を見つけ出し解決する力
- ③ 自己実現を目指す態度

中期取組目標

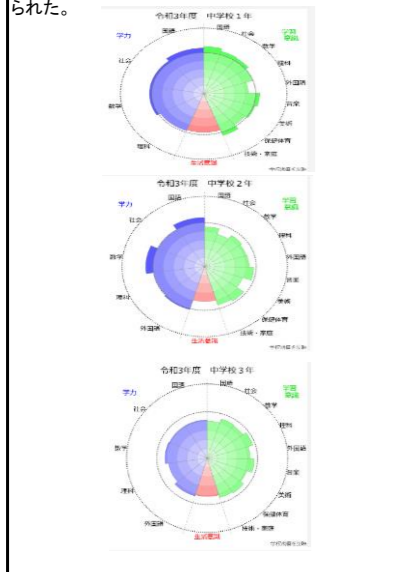
○「チーム洋光台第一中」として全教職員で活力と魅力ある学校づくりを目指します。
 ・生徒を中心とした教育活動を推進します。
 ・人権に配慮した教育活動を推進します。
 ・生徒が魅力を感じる授業づくりを目指します。
 ・生徒が笑顔で安心して生活できる人間関係づくりを目指します。
 ・生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指します。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 授業改善 | ①基礎・基本の定着を図るべく、学力・学習状況調査などの結果と支援教育の視点を踏まえた「わかる授業」を目指す。 ②小中一貫合同授業研究会を通して、9年間を見据えたカリキュラムマネジメントを図る ③各教科等で主体的・対話的な深い学びが可能となる授業を目指す |
| 担当 | 教科・学習係 |

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 学力検査について、1年生は特に国語の学習意欲が高く、情報活用能力が高い。2年生は数学の図形についての知識が特に高い。3年生は全体的に横浜市の平均に届きませんでした。英語の読むことはできていた。
 意識調査を見ると、生活習慣・学習習慣と規範意識、教科によっては学習への関心が低い現状が見られた。



今年度の目標

③各教科等で主体的・対話的な深い学びが可能となる授業を実現する。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|-----|
| <p>○小中一貫合同授業研究会を通して、小学校の視点も踏まえた、9年間を見据えたカリキュラムマネジメントを行い、各教科等で主体的・対話的な深い学びが可能となる授業づくりを目指す。</p> <p>○既習事項の振り返りを随時行い、知識を相互に関連付けてより深く理解できるように支援する。</p> <p>○他者の考えを聞き、自分の考えと比較し、自分の考えを広げたり深めたりする場を授業内に設ける。</p> | |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 道徳教育 | ①豊かな心の育成を目指して、道徳科の授業を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進し、一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを行う。 ②特に特別活動や総合的な学習の時間との関連を重視し、豊かな体験を通して学ぶ機会を設定する。 |
| 担当 | 道徳・人権・国際理解係 |

豊かな心に関わる本校の状況

洋光台第一中の生徒は、例年、自尊感情、規範意識が低い傾向にある。学習意欲は低いというほどではないが、学習習慣が身につけていない生徒も多い。この2つは関連性が強いことから、「わかる授業」を目指して授業改善をしながら、自尊感情を高める活動を取り入れることも大切であるとする。

今年度の目標

①豊かな心の育成を目指して、道徳科の授業を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進し、一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|-----|
| <p>【項目 道徳教育】 ○道徳の授業開きで語り合いや学びあいの大切さを確認し、「考え、議論する道徳」を目指して授業を行う。 ○洋光台第一中の生徒の課題について、日常の活動場面において自分自身はどうかということを考えさせ、話し合いができるように工夫する。 ○授業作りについて、係が研修会で学んだことを校内研修会で共有し、指導にいかす。</p> <p>【項目 人権教育】 ○生徒が人権意識を高めることができるようにするために、人権週間の取組を通してお互いの思いに触れることができるようにする。 ○生徒の自尊感情を高めるために、「わかった」「できた」と感じられる授業を目指して、授業作りを取り組む。 ○生徒一人ひとりについて理解を深めるために研修会を行い、発達上の課題や教育的ニーズをきめ細かく捉え、特別な配慮が必要な生徒への支援を行う。</p> | |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---------|---|
| 健康教育・食育 | ①生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上が実現できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育大会を生徒が主体になって運営できるようにする。②プロスポーツに関わるコーチの実演や食育の話にふれることで、自らの健康に対する意識を高め、食生活を改善していかうとする態度を育てる。 |
| 担当 | 保健体育・養護・食育 |

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「朝食を毎日食べる」割合は全国より低い。
 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、1日あたりのDVD、ゲーム機、携帯電話、パソコンなどの視聴時間について、女子では全国に比べ長時間視聴している割合が高い。
 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動は大切」と答えた生徒の割合は、全国に比べて高いことが分かる。

「運動は大切」と答えた生徒の割合

| | | 1次調査 | | 2次調査(2021) | | 4次調査(2022) | |
|----|-----|------|-----|------------|-----|------------|-----|
| | | 全国 | 横浜市 | 全国 | 横浜市 | 全国 | 横浜市 |
| 男子 | 全国 | 67% | 26% | 5% | 2% | | |
| | 横浜市 | 69% | 25% | 4% | 2% | | |
| 女子 | 全国 | 55% | 34% | 9% | 2% | | |
| | 横浜市 | 57% | 33% | 8% | 2% | | |

(2)これまでの学校の取組状況
 ○保健体育科では、各単元に必要な体力やストレッチなど、準備運動として毎時間取り入れてきた。
 ○保健体育科では、新体力テストの結果から自己分析をおこない、課題を認識してきた。
 ○体育大会では、実行委員の生徒中心に企画運営をし、生徒達の参加意欲を高めてきた。

今年度の目標

①生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上が実現できるよう保健体育科の授業改善を図る。②外部講師の実演や食育の話にふれることで、自らの健康に対する意識を高めていかうとする態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|-----|
| <p>○課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を一人ひとりの生徒が振り返る時間を設定する。 ○自ら課題を見つけ出し解決する力を育成するために、保健体育科の授業で学習カードに自分の課題やその実現状況の振り返り等をまとめられるようにしたり、お互いにアドバイスし合ったりできるようにする。</p> | |